

衛徳坊の石像発見!?



石像が発見されたのは、宇戸地区・宝幢寺跡から少し山を登った墓地の中。台座には“宝曆三”（西暦 1753 年）の文字が刻まれています。



なるほど!
その2

衛徳坊は実際にいたの?

大蛇を退治したとされる衛徳坊ですが、はっきりとした史料が実存しておらず、実在の人物であったかどうかは定かではありません。ところが最近、衛徳坊のもととされる石像が発見され注目を集めているんですよ。



真光山宝持寺

都井小学校のプール横、真光谷川沿いに坂道を上がっていくと、小さなお堂や石碑が現れます。ここは大蛇退治の物語に出てくる“真光寺”とされています。

お堂の中にはかつて衛徳坊とされる木像が安置されていたそうです。現在では朽ち果ててしまい、その姿を見ることはできません。

なるほど!
その3

いつから行われているの?

今年で51回目を迎える都井岬火まつりですが、じつは、その遙か以前から「宮原地区十五夜柱松」として行われていました。51回というのは、都井岬で行われるようになって51回目ということなんですよ。

なるほど!
その4

都井岬の前はどこで行われていたの?

都井岬に会場を移すまでは、都井小学校そばの田んぼで行われていました。運動場の東側に2つの川が合流する地点があるでしょ。そこが大蛇のすみかだったのです。退治したのもその場所だったことから、できるだけ近いところで行うのが良いと、すぐそばにある田んぼで行われていたのだそうです。

衛徳坊ってどんな人?

くしま郷土史家の田中 靖基さんに、衛徳坊の人物像について聞きました。

衛徳坊は、密教を信仰していた修験者だったと思われます。柱松自体が、「旅僧から伝授されたもの」と書かれた資料もありますし、名前に「坊」がつくのも修験者の特徴なんですよ。今回見つかった石像に彫られた「阿闍梨」の文字から密教の僧であったと推測できます。

村民に教化を行うなどして、「徳の高いお坊さん」として大変人望が厚かったので、大蛇退治の時も村民を従えることができたのではないのでしょうか。

都井で発見された石像は、後年、衛徳坊の偉業を称え、村民によって建てられた供養塔ではないかと考えられます。

くしま郷土史家
たなか やすもと
田中 靖基さん



未来の勢子さんが都井岬火まつりに迫ります!

左から
かわさき かいせい
川崎 海星くん
(小4)
やました なつき
山下 夏輝くん
(小5)
やました まひろ
山下 真弘くん
(小4)



串間の夏の風物詩と言えば、そう、都井岬火まつりです。今年で51回目を迎える、この伝統のお祭りについて調べたいという、地元、都井小学校の児童3人が、祭りをを行う都井地区柱松保存会を訪ねました。

都井岬火まつり



都井地区柱松保存会 会長
おおたに しげみつ
大谷 重満さん

教えてくれる人

なるほど!
その1

そもそも何のお祭りなの?

火まつりの起源となるこんな物語があるんですよ。



昔々、都井が荒井谷といわれていた頃のことです。その当時、この一帯は大樹がうっそうと天を覆い、現在の宇戸、東、迫地区周辺は、手つかずの大森林で、昼でも暗く、それは寂しい場所でした。また、今の宮原あたりは一面の沼地で、怪物変化が時々出没し、村人たちを脅かしていました。中でも、一番恐れられていたのが大蛇です。今の都井神社前で十五夜ののぼりが立つ付近に、驚くほど大きな蛇が住みついて、人や家畜に危害を加えていました。

村中の人々は寄り集まってこの大蛇を退治しようと話し合いますが、当時は、鉄砲も大砲もなく、手の打ちようがありません。むなしく時が経つのを待つばかりでした。

時に、真光寺の住職で、名を衛徳坊という大変勇敢なお坊様がいました。このお坊様は慈悲深く、徳高い名僧で、村人達の悲しみや苦しむ様子を見るに忍びず、自ら先頭に立って、大蛇退治を決行されることになったのです。

蛇は火を恐れることから、火攻めの戦法をとることになり、勢子全員が手に手に松明を持ち、各方面から大蛇を狩りたてます。ついに逃げ場を失った大蛇は岩穴に逃げ込んだのです。すかさず、衛徳坊は大蛇の口



※イラストは全てイメージです

の中に松明を投げ入れ、空に十字を切って呪文を唱えました。すると、大蛇は口から火炎のような血潮を吹き出して息絶え、とうとう退治に成功したのです。これで村人たちの心配もなくなり、明るい生活ができるようになったということです。この大蛇退治の様子を今に伝えるのが『都井岬火まつり』で、衛徳坊の偉業を称え、共に豊作と明月を祝うことにしたといわれています。

